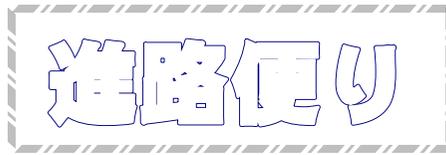


2009年6月4日



進路指導部発行

## 進路は自らの努力で勝ちとろう（進学編）

3年生の6月を迎え、いよいよ高校生活の総決算とも言うべき進路の決定・実現していく時期になりました。自分なりの目標に向かって努力し、納得のいく進路をつかみ取って欲しいと願っています。

さて、31期生の進路希望の特徴ですが、この2年ほど4年制大学への志向が強まっていたのですが、大学進学希望者は大きく減少し、看護医療系進学希望者・就職希望者が著しく増加しました。昨今の経済状況の中で、現実社会を生き抜くという意味の指向が強まってきたのだと思われます。

従って、大学・短大・専門学校に進学する場合は、より有意義な学校生活を追求しなくては、進学する意味はありません。そのためには、今からの学校選びや受験勉強の取り組みに真剣にかつ精一杯の努力をすることからスタートして下さい。安易な形で「合格出来る学校」を決めてしまった人は、入学後の頑張りにつながりません。「何となく」進学し、「卒業しさえすればよい」と考えている人は、大切な時間と金を浪費するだけです。

学校選びの考え方・学習方法・受験方式の決定等については、PTA 総会時の講演資料を参照して下さい

### いつ第一志望校を決定するのか？ AO入試のエントリーは？

1学期は志望学部・学科・希望分野を確定し、様々な情報から志望校をリストアップする時期です。その中から3校に絞り込み、夏休みにオープンキャンパスに参加し、十分に比較検討した上で、第一志望校を決定して下さい。この決定方法で、決して遅いことはありません。

6月の段階で大学・短大・専門学校にオープンキャンパスに参加した場合、AO入試の説明を受け、併せてエントリーを強く進められる場合が多いようです。AO入試の場合ある段階で専願扱いになりますので、慌ててエントリーしてしまうと、後戻りができなくなりますので十分な注意が必要です。

4年制大学の難関校（中堅私学）を目標に早い時期に第一志望を確定していた場合、AO入試での受験も選択肢の一つとしてありえます。この場合、桃山学院大学についてはAO入試のエントリー時期が早いので注意して下さい。また、芸術系学部志望の場合、大阪芸術大学のエントリー時期についても早いので注意が必要です。

## 学校推薦の校内選考基準について

進学する場合でも就職の場合でも、一般入試を除いては、学校推薦という形で受験することになります。学校が推薦するわけですから、当然推薦に値する人物であることが前提です。学校生活がいい加減な生徒や学校の規律を守れない生徒は学校として推薦はできません。その点を十分に心に留めしっかりと学校生活を送って欲しいものです。

進学における指定校推薦では、推薦人数に枠があります。従って、その人数を超える希望があった場合、校内選考を実施することになります。就職の場合では、あらかじめ校内選考で総合成績の順位を決め、その順にしたがって受験企業を決めていくという方式をとります。

校内選考は、以下の様に **3年間の学習成績と出欠状況を総合した選考基準**に基づいて行います。出欠状況も考慮に入れたのは、3年間の努力度をよく表しているからです。趣旨をご理解の上、ご了承下さい。

評定平均値（5点満点）×20＋出欠点（5点満点）＝総合点（105点満点）

出欠点の計算式

出席点（3点満点） 欠席1回につき0.1点ずつ減じる

遅刻点（2点満点） 遅刻1回につき0.05点ずつ減じる。

※出席点・遅刻点とも0点になった段階でそれ以上減じることはしない

参考 出席点の重みは評定の0.25分に相当します

評定平均値 3.50の生徒

無遅刻・無欠席の場合 出欠点5点分を評定に上乘せすると、

$3.50 + 0.25 = 3.75$ が校内選考の基準点

評定平均値 3.74の生徒

3年間で欠席30回・遅刻40回の場合 出欠点0点→3.74で変わらず

上記の例は極端な場合ですが、この方式で、校内選考を実施した場合、評定平均値の上位者が必ずしも選考されない場合がありますのでご理解下さい。

